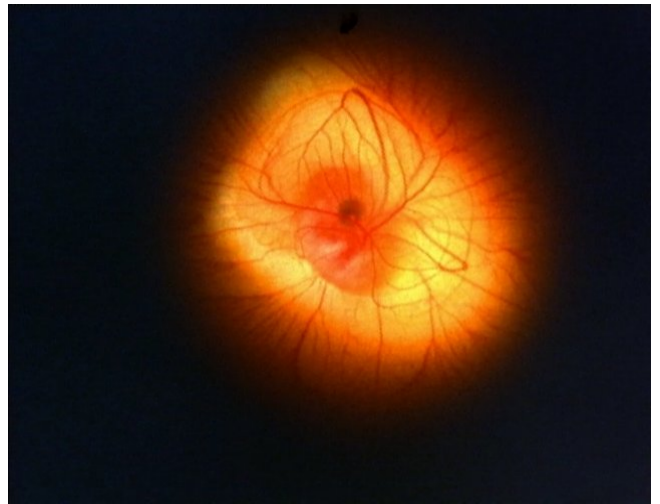


## 作曲 一柳 慧 短編科学映像集

Scientific Short Films – Music Composed by Toshi ICHIYANAGI

1960年代は、企業スポンサー映像の黄金期であった。敗戦の混乱が終息し、日本全体が高度成長期に入り、その象徴として東京オリンピックが招致された。一方、テレビ放送はカラー化の途上で、未だ企業宣伝の主流たりえなかった。それで短編映像には、企業宣伝の潤沢な資金が巡ってきた。

1954年に株式会社化した東京シネマは、1920-30年代に、山内光という芸名で松竹の映画俳優を務めつつ、プロキノ、ソ連映画紹介や報道写真などに手を染め、戦争直前には松竹を退き、国際グラフィック雑誌「FRONT」編集人となった岡田桑三（1903-1983）をプロデューサーとして、既製のコンセプトを打ち破る斬新な企画で数々の佳作を産み出した。1950-60年代当時も、「選曲」という用語は存在したが、一定以上の作品は、作曲家に新曲を依頼し、大きなスタジオで音楽録音を行って、ナレーションや効果音とのミキシングを行っていた。このDVDは、当時新進気鋭の作曲家として注目されていた一柳慧に作曲を委嘱した東京シネマ作品全6作品を集めたものである。岡田桑三には、1920年代ドイツ、ベルリン留学時代に舞台芸術を中心に新興芸術運動に親しむチャンスがあり、山田耕筰、松平頼則といった音楽家たちとの交友もあった。しかし、社内で音楽的素養を豊かに持っていたのは、撮影部長、小林米作と録音技師、片山幹夫であった。小林は、「ミクロの世界」に代表される顕微鏡微速度撮影の世界的なカメラマンであるが、青春期に音楽家を夢見ており、小林武史、健次という子息2人を世界的なバイオリニストに育てた。一柳慧起用には、子息健次と一柳の交友を考えれば、小林の強いイニシアティブがあったことは疑いない。ここに取り上げる5作品の内、「太陽の糸」を除く5作品までが、小林が撮影を担当した作品であり、後年、自ら興したヨネ・プロダクション時代にも、小林は、「The Bone」シリーズなど、代表作の音楽を一柳に委嘱している。



「パルスの世界 - エレクトロニクスと生体と -」（1962年28分）

企画：松下電器産業 製作：岡田桑三 脚本：吉見泰 演出：小林米作・渡辺正巳・大島正明 撮影：小林米作・豊岡定夫・浅野勲 照明：田端正一 生物資料：浅香時夫 編集：伊勢長之助 録音：片山幹夫 音楽：一柳慧 造型：武田謙之助 解説：城達也 現像：東洋現像所

頭脳の働きは人間にだけしかできないものと考えられてきた。ところがエレクトロニクスも生物も、同じ電氣的パルス信号で働いている。この作品は、情報を伝え、情報を処理する、パルスの世界を探り、生物の働きも、エレクトロニクスの働きも原理的に相以た関係にあり、それからエレクトロニクスへの理解を助けようと試みている。

受賞 国内：1962年教育映画祭学術科学映画最高賞並びに

NHK賞、演出・撮影技能賞、教育映画祭特別企画賞、毎日映画コンクール教育文化映画賞、キネマ旬報短篇映画ベストテン第2位、日本映画技術賞、1963年科学技術映画祭優秀作品賞 海外：1962年 国際科学映画協会ワルシャワ映画祭グランプリ、国際科学映画協会ワルシャワ大会名誉賞、1963年サンフランシスコ映画祭銀賞

「生命誕生」（1963年17分）

自主企画 製作：岡田桑三 脚本：吉見泰 撮影監督：小林米作 演出：浜辺正巳・大島正明 撮影：浅野勲・永井弘道 生物資料：浅香時夫・高岡成好 録音：片山幹夫 音楽：一柳慧 解説：城達也 現像：東洋現像所

この映画は、生命の誕生という感動的なできごとを、顕微鏡微速度撮影を駆使しながら、ニワトリの受精卵から胚盤を取り出し、ガラスの容器の中で培養して、その成長を観察する。はじめは盤状の胚から、次第に体の基が形成されていく過程が、動態として追求される。

受賞 国内：1963年教育映画祭学術科学映画最高賞並びにNHK賞、毎日映画コンクール教育文化映画賞、キネマ旬報短篇映画ベスト・テン第2位、1964年東京都教育映画コンクール金賞、科学技術映画祭優秀作品賞

海外：1963年パドヴァ大学科学教育映画大会グランプリ、1964年ブダペスト国際科学技術映画祭グランプリ、国際科学映画協会アテネ大会名誉賞

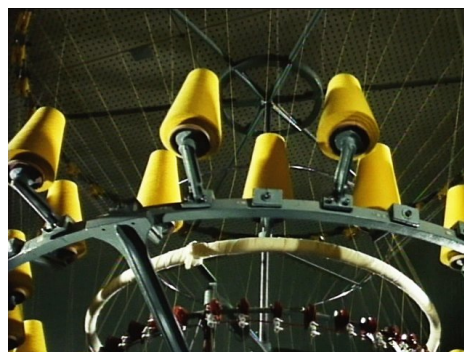


ついた。この映画は、壮挙をカラー・シネマスコープで記録している。

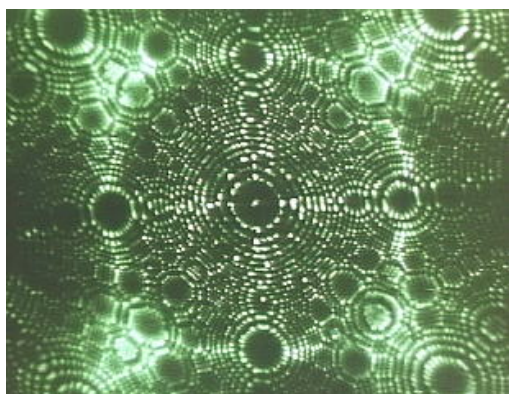
### 「太陽の糸」 (1963年29分)

企画：東洋レーヨン株式会社 製作：岡田桑三 脚本：吉見泰 演出：黒木和球 撮影：加藤和三 照明：田端正一 音楽：一柳慧 録音：片山幹男 解説：日下武史 現像：東洋現像所

合成繊維は高分子化学が産んだ現代の繊維だ。ナイロン、テトロン、トレロン、パイレンなど、各種繊維を生産する東洋レーヨン。その工場設備、生産工程、さらにバリ、ローマ、ニューヨーク等、広く海外の衣生活に奉仕する東レ製品をつうじて現代の代表的繊維メーカーの姿を浮彫りにする。



### 「結晶と電子 - エレクトロニクスと生体と -」 (1964年26分)



企画：松下電器産業株式会社 製作：岡田桑三・吉見泰 脚本：吉見泰 撮影監督：小林米作 演出：浜辺正巳・大島正明 撮影：小林米作・浅野勲・西山文夫 解説：石倉和義・土田定夫 生物資料：浅香時夫 音楽：一柳慧 録音：片山幹男 造型：岩崎和子 解説：城達也 現像：東洋現像所

生命のない結晶も、生きて増殖する生物も、すべて原子の結びつき方や、そのならび方によって創られた自然の産物である。自然科学は、結晶の中の電子の働きを究め、整流や増幅、光電効果などの作用を起こす半導体を作りだした。結晶や半導体における電子の働きの研究は、葉緑体や細胞のミトコンドリアの中の電子の働きをも解明するにいたった。生物と結晶の中の電子の働きの探究—それは、エレクトロニクスの将来に大きな課題を投げかける。受賞 国内：1964年教育映画祭学術科学映画最高賞並びにNHK賞、日本紹介映画コンクール銀賞、1965年毎日映画コンクール教育文化映画賞、東京都

教育映画コンクール銀賞

海外：1964年パドヴァ大学科学教育映画大会グランプリ

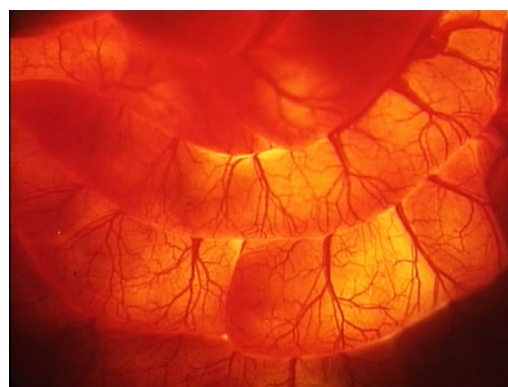
### 「選ばれた乳酸菌」 (1965年18分)

企画：株式会社ヤクルト本社 製作：岡田桑三 脚本：吉見泰 監督：小林米作・浜辺正巳 撮影：小林米作・武田純一郎・小林正徳、高岡成好・長谷川高久・平福貞文 生物資料：浅香時夫 照明：土田定夫・石倉和義 音楽：一柳慧 録音：片山幹男 解説：城達也 現像：東洋現像所

この映画は人間の腸の中で整腸の働きをする乳酸菌に着目して、この細菌を中心に悪性の細菌との関係、腸の細胞との関係などを顕微鏡微速度撮影を駆使して追求している。科学者は、この細菌を人為淘汰して乳酸菌シロタ株を育てた。これを大量に腸におくりこんで、腸の健康を守ろうという試みが成功したのだ。

受賞 国内：1965年教育映画祭学術科学映画最高賞並びにNHK賞、日本紹介映画コンクール銀賞、1966年科学技術映画祭優秀作品賞

海外：1965年国際科学映画協会ブカレスト大会名誉賞、パドヴァ大学科学・教育映画大会第1位賞



「作曲一柳慧 短編科学映像集」カラー・モノラル、NTSC DVD-R 二枚組 TC10901 販売価格 7,000円(税込)

発売元：株式会社東京シネマ新社 112-0001 東京都文京区白山2-31-2-101

tel：03-381-4577 fax：03-3811-4576 info@tokyocinema.net http://tokyocinema.net

店頭販売：OMEGA POINT 〒154-0001 東京都世田谷区池尻1-11-6 パークサイドマンション206

tel/fax：03-3795-0845